景観形成に係る住まい・まちづくり活動調査報告

－徳島県のまちなみ調査－

平成１６年３月

（社）徳島県建築士会　阿波のまちなみ研究会

（社）全国市街地再開発協会

目　　次

１．活動の背景 …… 1

２．活動の経緯と目的 …… 1
（１）目的 …… 1
（２）活動の経緯 …… 1

３．活動の内容 …… 2
（１）設立当初 …… 2
（２）設立年から平成１４年度までの活動内容 …… 2
（３）平成１５年度の活動内容 …… 11

４．活動の成果 …… 13
（１）設立年から平成１４年度までの成果 …… 13
（２）平成１５年度の成果 …… 15

５．今後の展開 …… 18
（１）これまでの継承 …… 18
（２）新しい活動の展開 …… 19

６．活動のポイント …… 20
（１）人材の活用 …… 20
（２）資金調達 …… 20
（３）関係機関との連携・ネットワーク等 …… 21

＊　報告書の他、「阿波のまちなみマップ」作成

１．活動の背景

徳島県は伝統的建築物の宝庫といえる。農村歌舞伎や人形浄瑠璃を上演するための農村舞台は、かつて県下一円に建設され、今でもその現存数は全国的にみても非常に多い。また、吉野川流域の物流で栄えた町では、うだつを構えた町屋が建ち並ぶ「うだつの町並み」が今も残されている。県南部の漁村集落では、「ミセ造り」と呼ばれる蔀帳（ぶちょう）を備えた住宅が、狭い街路に建ち並ぶ独特な集落景観を残している。更に、伝統的な農家住宅である茅葺き民家も、ほとんどが屋根は鉄板で覆われているものの、県内北部や西部の農村部には数多く残されており、周囲の山並みと調和した独自の農村景観を醸し出している。

しかし、近年の生活様式の変化、産業構造の変化による過疎化と高齢化などにより、こうした伝統的な建築物は急速に減少し始めている。地域に固有の素材と技術により建設され、地域の人々に大切にされてきた伝統的な建築物は、その地域の景観あるいは町並みのアイデンティティの根拠となるもので、後の世代へ継承していくためにその再生活用方策の確立が急がれている。

２．活動の経緯と目的

（１）目的

建築士として地域の歴史・風土さらには文化に根ざした建築の創造活動を行う必要があり、そのためには徳島の「地域」の歴史を我々自身が学ばねばならない。そのような認識をもつ仲間が集まり、昭和５９年に「阿波のまちなみ研究会」を発会させ、多くの調査研究データを蓄積してきた。一方で社会的な情勢が変化し、伝統的な民家や町並みが再評価され、その再生活用が望まれるようになってきている。今回の活動の目的は、研究会の調査研究成果を「まちなみマップ」としてまとめ、それを公表していくことで伝統的建築物の価値が見直され、ひいてはその再生活用につながることである。

（２）活動の経緯

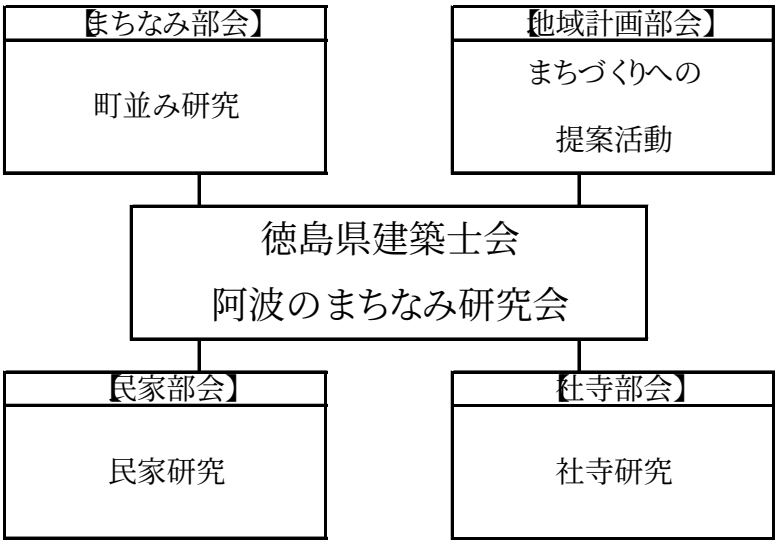
建築士会の有志による研究会の発会とともに、再生活用の勉強会を兼ねて自主研究として、脇町の「うだつ」のある町屋の調査を行ってきた。この活動により、町の要請もあってＨＯＰＥ計画の策定の一環として町並み調査部門に参加した。我々にとって脇町の伝統的町並みの調査研究は、民家調査や地域の人々との関わり方など、基礎的な学習の場となった。また伝統的建造物群保存地区指定に向けての奈良文化財研究所の調査に参加し、学術的な調査手法を学ぶとともに、保存修景の手法としてのガイドラインの策定・再生案の提案などを通じてまちづくりとの関わりについて多くの示唆を得て、研究会の体制充実にむけての貴重な体験となった。

その後、県内の市町村からの依頼を受けた調査や研究会独自の自主調査研究のなかで、これまで教わってきた伝統的建築物の再生活用への考え方を実践していくように心がけている。

３．活動の内容

（１）設立当初

活動は原則的に全員参加としているが、それぞれ興味のある分野も異なることから、組織を「まちなみ」・「民家」・「社寺」・「地域計画」の４つの部会で構成し、それぞれで研究活動を行う。地域毎の調査については、調査は共同で行い、まとめる段階で分野毎の視点で行うシステムとした。



具体的には、以下の活動がある。

・脇町調査（昭和５７年～昭和５９年）「脇町伝統的建築物群調査報告書」
・徳島市「旧国府支所」（建築単体の個別調査）
・「徳島カルチャーアイランド構想」提案（まちづくりへの提案活動）

（２）設立年から平成１４年度までの活動内容

・建築物の調査

藍住町の奥村家や美郷村後藤田家、徳島市旧教育会館調査など、個別的な建築物の調査に取り組んできた。県立図書館が主催する阿波学会総合学術調査にも民家班・社寺班として参加し、県内各市町村の民家や社寺建築の実態調査に携わっている。また県内に数多く残されていた「農村舞台」に対して昭和 63 年から平成３年にかけて悉皆的調査を行い、その成果を平成４年「阿波の農村舞台」として発表した。

▲池田町川人家長屋門

▲上那賀町西俣農村舞台復活公演

・集落や町並みの調査

脇町の町並み調査のほか、池田町や貞光町でのうだつの町並み調査、県南部の漁村集落調査、徳島市内の旧街道沿いの町並み調査などを実施している。漁村集落調査では、県南の海部町の「ブチョウ」あるいは「ミセ造り」と呼ばれる「柱間装置」に興味をひかれたのをきっかけに、県南部の漁村を集中的に調査し、「漁村集落の＜景＞（ミセ造りの街並み調査報告）」として発表した。

最近では、東祖谷山村落合築の伝統的建造物群保存対策調査に参加、保存計画や修景のガイドラインづくりに協力をしている。

・企画展の開催

平成８年に「過去に学ぶ住まいの知恵」というテーマで、県立２１世紀館の企画展覧会の企画運営に携わった。地域文化として培ってきた住まいに刻み込まれた様々な知恵を読みとり、これからの「住まいづくり」や「地域づくり」への方策を探るという考え方を基にまとめたもので、漁村集落特有のミセ造りの実物大模型による空間体験や、地元写真家の協力による県下の素晴らしい風景写真の展示により、徳島の良さを認識してもらうことができた。

以下、活動年表を「研究会活動」と「阿波学会」に分けて掲載する。

①研究会活動

昭和５９年度

・徳島市「旧国府支所」（建築単体の個別調査）

昭和６０年度

・藍住町「奥村家」（建築単体の個別調査）

昭和６１年度

・「徳島市染織工芸団地構想」提案（まちづくりへの提案活動）

昭和６２年度

・美郷村「後藤田家」（建築単体の個別調査）

▲後藤田家

▲脇町

昭和６３年度

・徳島市「旧教育会館」（建築単体の個別調査）

・鴨島町「旧徳中体育館」（建築単体の個別調査）

・鳴門市「塩田民家」

・農村舞台の調査研究開始（～平成３年）

▲徳島市旧教育会館

▲上那賀町拝宮農村舞台

平成　元年度

・徳島市「丈六寺経蔵」（建築単体の個別調査）

・東祖谷山村「喜多家」（建築単体の個別調査）

・建築学会設計競技「ふるさとの芸能空間」応募（まちづくりへの提案活動）

▲東祖谷山村喜多家

平成　２年度

・松茂町「篠賀家」（建築単体の個別調査）

・貞光町「うだつの町並み」調査

平成　３年度

・美馬町「鎌村家」（建築単体の個別調査）

・上那賀町西俣農村舞台「人形芝居」復活公演（まちづくりへのイベント活動）

・徳島県下「うだつ」調査

▲上那賀町農村舞台復活公演

▲　同　　左

平成　４年度
・徳島市「宮井小学校八多分校」（建築単体の個別調査）
・「阿波の農村舞台」出版
平成　５年度
・会報誌「まち研だより」発行開始
・県南漁村集落ミセ造りの民家町並み調査
・市場町「切幡寺大塔」（建築単体の個別調査）
・建築士事務所協会「徳島の文化財［建造物］」編集協力
平成　６年度
・建築学会「まちなみウォッチング IN 脇」協力
・阿波学会４０周年記念式典協力
・剣持和夫展協力
・徳島県南漁村「ミセ造り」の街並み調査報告書「漁村集落の＜景＞」
・相生町「萬福寺本堂」老朽調査

▲まちなみウォッチング IN 脇

▲剣持和夫展

平成　７年度
・脇町「脇町劇場」（建築単体の個別調査）
・徳島市民双書「すまいとくらし」編集会議開始
・淡路島「上田家」（建築単体の個別調査）
・徳島市沖ノ洲「加子屋敷／坂東家」（建築単体の個別調査）
・阿南市椿泊「久米家」（建築単体の個別調査）
・資料展「これが犬飼じゃ！」開催
・まちづくり塾「阿波のくんだら塾」実行委員会発足
・藍住町「見性寺」（建築単体の個別調査）
・徳島市国府町「天狗久の工房」（建築単体の個別調査）

▲加子屋敷坂東家

▲藍住町見性寺

▲天狗久工房

▲阿波のくんだら塾

平成　８年度

・まちづくり塾「阿波のくんだら塾」開催協力
・出羽島プロジュクト
・日本建築学会「総覧／日本の建築」編集協力
・西澤文隆実測図展開催協力
・文化の森２１世紀館企画展企画運営
・「阿波の農村舞台」再販
・日本建築学会四国支部助成「阿波の社寺建築」発行

▲阿波のくんだら塾／犬飼農村舞台の見学

▲西澤文隆実測図展

平成　９年度

・文化の森２１世紀館企画展「人・住まい・まち」企画運営
・「ドクターエンドー」企画展示
・日本建築学会「まちなみウォッチング IN 出羽島」企画協力
・台湾楽山文教会徳島案内
・登録文化財事前調査

▲「人・住まい・まち」展

▲「人・住まい・まち」展／ミセ造り

▲町並みウォッチングＩＮ出羽島

▲町並みウォッチングＩＮ出羽島／牟岐港

▲登録文化財事前調査／鳴門天理教

平成１０年度

・「東京理科大学出羽島調査」協力
・阿波町「川人家」（建築単体の個別調査）
・台湾楽山文教会徳島案内
・木頭杉集成材加工工場見学
・神山町「名西酒造」蔵活用提案調査
・徳島市民双書「すまいとくらし」発刊

▲東京理科大学出羽島調査

▲阿波町川人家

平成１１年度

・山川町「住友家」（建築単体の個別調査）
・石井町「蓮光寺桜門」（建築単体の個別調査）
・台湾楽山文教会徳島案内
・建築学会四国支部創立５０周年記念事業協力
・徳島県建築士会創立５０周年記念事業協力
・日本ナショナルトラスト「出羽島見学会」協力
・平成９年度「人・住まい・まち」展記録集編集
・徳島市名東町「佐藤家」（建築単体の個別調査）

・建築学会四国支部地方都市研究「椿泊・庄町」（町並み調査）
・兵庫県立淡路景観園芸学校来徳案内

▲山川町住友家

▲日本ナショナルトラスト

平成１２年度
・徳島新聞「とくしま建物再発見」執筆協力
・土成町民家調査
・徳島市「沖ノ洲の加子屋敷」見学会
・大阪府藤井寺「林家」（建築単体の個別調査）
・平成９年度「人・住まい・まち」展記録集発行
平成１３年度
・海部町「岡沢家」（建築単体の個別調査）
・建築学会四国支部「徳島市茅葺き民家実態調査」
・「まち研だより 100 号記念号」発行
・「風土と建築～ｱｰﾒﾀﾞﾊﾞｰﾄﾞにおけるﾙ･ｺﾙﾋﾞｭｼﾞｪ、ｶｰﾝ、ﾄﾞｰｼｰ」展への協力
・上板町「茅葺き民家調査」
・徳島県建築士会創立５０周年記念誌「阿波の風」発行協力
・上板町「大聖寺本堂」（建築単体の個別調査）

▲海部町岡沢家（平成１３年）

▲海部町岡沢家（平成１５年）

▲上板町大聖寺

平成１４年度

・「まち研だよりデジタル版」配信開始
・東祖谷山村「落合集落伝統的建造物群保存対策調査」協力
・徳島市「森家」（建築単体の個別調査）
・建築学会四国支部「徳島市茅葺き民家／補足詳細調査」
・徳島市「佐藤家」「室住医院」（建築単体の個別調査）
・勝浦町今山農村舞台復活公演「阿波の農村舞台と人形浄瑠璃」協力
・小松島市「西野家」調査（建築単体の個別調査）
・建築学会「出羽島の公開研究交流会」協力

▲勝浦町今山農村舞台

▲勝浦町今山農村舞台復活公演

▲建築学会出羽島交流会

②阿波学会

県下の各市町村に残されている町並み・民家や社寺建築などを建築学的見地から調査及び研究し文化の推進に寄与することを目的として、毎年行われる阿波学会総合学術調査（徳島県立図書館主催）に、建築班（日本建築学会徳島支所班と郷土建築研究班）として参加している。

初参加は昭和５８年度の鴨島町で、平成５９年度は羽ノ浦町であった。

昭和５８年度　鴨島町　「鴨島町の民家」
昭和５９年度　羽ノ浦町　「羽ノ浦町の民家」　春日野団地住民の住宅意識調査
昭和６０年度　石井町　「石井町の民家」　間取りについての考察Ⅰ
昭和６１年度　海部町　「海部町の民家」　蔀帳（ミセ造り）の町並み
昭和６２年度　板野町　「板野町の民家」　間取りについての考察Ⅱ
昭和６３年度　上那賀町　「上那賀町の民家」
「上那賀町の社寺建築」　農村舞台
平成　元年度　土成町　「土成町の民家」　間取りについての考察Ⅲ

平成　２年度　松茂町　「松茂町の民家」　間取りについての考察Ⅳ
松茂町住民の住意識調査
平成　３年度　半田町　「半田町の民家」
「半田町の神社建築」　石の随身像
海南町　「海南町の民家」　蔀帳（ミセ造り）の町並み
「海南町の神社建築」　通夜堂
平成　４年度　三好町　「三好町の民家」
「三好町の神社建築」　入母屋造神殿
平成　５年度　由岐町　「由岐町の民家」　蔀帳（ミセ造り）の町並み
「由岐町の社寺建築」
平成　６年度　那賀川町　「那賀川町の民家」
「那賀川町の社寺建築」
平成　７年度　北島町　「北島町の民家」
「北島町の社寺建築」
平成　８年度　日和佐町　「日和佐町の民家」
「日和佐町の社寺建築」
平成　９年度　井川町　「井川町の民家」　山と町の民家
「井川町の社寺建築」　庶民の石積み文化
平成１０年度　穴吹町　「穴吹町の民家」
「穴吹町の社寺建築」　明治前の神社建築
平成１１年度　神山町　「神山町の民家」
「神山町の社寺建築」　青石文化
平成１２年度　相生町　「相生町の民家」
「相生町の社寺建築」
平成１３年度　佐那河内村　「佐那河内村の民家」　村全域の分布確認
「佐那河内村の社寺建築」
平成１４年度　三野町　「三野町の民家」　町全域の分布確認
「三野町の社寺建築」
平成１５年度　美郷村

▲鴨島町（昭和５８年）

▲上那賀町（昭和６３年）

▲半田町（平成３年）

▲海南町（平成３年）

▲那賀川町（平成６年）

▲日和佐町（平成８年）

▲井川町（平成９年）

▲穴吹町（平成１０年）

▲神山町（平成１１年）

▲美郷村（平成１５年）

（３）平成１５年度の活動内容

①阿波学会総合学術調査

例年通り、民家班・社寺班として阿波学会総合学術調査に参加し、美郷村の民家建築や社寺建築の調査研究を行い、その特徴を明らかにした。

②建築学会四国支部ワーキンググループ活動

１４年度まで建築学会四国支部ワーキンググループ活動のなかで行っていた徳島市の茅葺き民家の悉皆的調査を、今年からは鳴門市を舞台に移し、全市的に茅葺き民家を確

認し、現存する茅葺き民家の特徴を明らかにした。また代表的な民家に対しては詳細調査を実施し、建築時期の確認、架構や間取りの特徴などを聞き取りした。

③東祖谷山村落合地区伝統的建造物群保存対策調査

１４年度に引き続き、奈良女子大学増井研究室の調査活動に協力した。今後はこれまでの成果をもとに、保存再生計画の保存基準づくりやデザインガイド策定作業に取り組んでいく予定である。

④町並み調査

かねてから懸案の「阿波の町並み」のとりまとめ作業に着手した。

これまでに調査をした町並み・集落（脇町・貞光・池田・出羽島・海部・海南・由岐・椿泊・庄町）の現状を確認した。また、新たに撫養街道など旧街道沿いの町並みや四国八十八カ所札所などの門前町、農山村の集落を調査し、現存する徳島の伝統的町並みの写真と地図を中心に、町並み類型や特徴、今後の課題などのコメントをつけた「まちなみマップ」にまとめた。

⑤建築単体の個別調査

・北島町「三木家蔵」の調査。

・海南町「岡沢家」倒壊実験の協力。

・上那賀町「白石小学校」木造校舎の調査。

４．活動の成果

（１）設立年から平成１４年度までの成果

①報告書・書籍

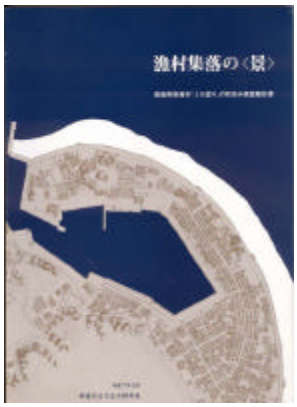
・昭和６２年「脇町伝統的建築物群調査報告書」作成
・平成　４年「阿波の農村舞台」出版
・平成　５年「徳島の文化財［建造物］」編集協力

▲脇町

▲阿波の農村舞台

▲徳島の文化財

・平成　６年「漁村集落の＜景＞」徳島県南漁村「ミセ造り」の街並み調査報告書
・平成　８年「阿波の社寺建築」発行
・平成　８年「阿波の農村舞台」再販
・平成　９年「阿波のくんだら塾」記録集



▲漁村集落の＜景＞

▲阿波の社寺建築

▲阿波のくんだら塾

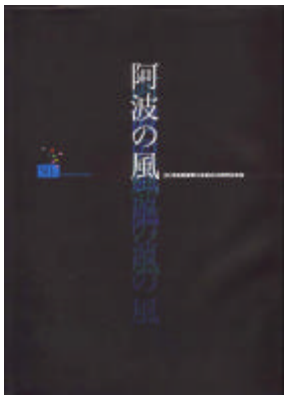
・平成１０年「すまいとくらし」市民双書
・平成１１年「人・住まい・まち」展記録集
・平成１１年「徳島における町並み実態調査」建築学会四国支部地方都市研究

▲すまいとくらし

▲人・すまい・まち展

▲徳島における町並み実態調査

・平成１３年「阿波の風」徳島県建築士会創立５０周年記念誌
・平成１３年「徳島市茅葺き民家実態調査」建築学会四国支部
・平成１４年「徳島市茅葺き民家／補足詳細調査」建築学会四国支部



▲阿波の風

▲徳島市茅葺き民家実態調査

▲徳島市茅葺き民家補足詳細調査

②顕彰
・「阿波の農村舞台」　平成４年度徳島県　出版文化賞
新聞記事：犬飼農村舞台などでの公演や楽屋風景などのカラー写真多数を掲載。阿波の伝統芸能の様子を生き生きと伝えるとともに、県内の神社境内にある３０８の農村舞台を調査、分析。現存舞台すべての規模が一目で分かるよう写真、平面図、境内配置図を載せ建築学的見地から解説した労作。
・平成５年度日本建築士会連合会　まちづくり賞
対象：伝統的まちなみ・民家・社寺建築など一連の調査活動。
・平成８年度徳島県優秀建築設計コンクール　優秀賞（まちづくり造景部門）
講評：県下の伝統的民家、社寺及び街並みを調査し、地域の歴史、風土及び文化に根ざした建築やまちづくりの創造を目標に活動する団体である。（以下略）

③「まち研だより」の発行

建築士会のなかの一研究会という小さい集団であるからこそ、活動を正しく評価してもらうために、自分達の主張を載せた会報誌を出そうという意義をもった活動。

・平成　５年　５月　第１号創刊
・平成１３年１１月　創刊１００号記念号
・平成１５年　３月　デジタル版配信開始
・平成１６年　３月現在　第１２８号継続中

（２）平成１５年度の成果

①阿波学会総合学術調査

調査の成果は「美郷村の社寺建築」「美郷村の民家」としてとりまとめ、１２月に地元美郷村で発表した。また、報告書は「阿波学会総合学術調査紀要（美郷村）」として平成１６年度中に刊行される予定である。内陸部で山のなかにある美郷村の民家は地形の影響を受け、立地の形態は西部と東部に２分されるようで、空き家や廃屋は西部で目立った。

平成１６年度は木沢村で総合学術調査が実施され、さらに阿波学会設立５０周年の節目にあたり、これまで発行された紀要のデジタル化とインターネット上での公開が企画されている。このような事業の地道な継続が徳島県民に地元の良さを再認識させ、今も残されているまちづくりに係わる良好な資源の発掘につながると考えられる。事業への参加と協力により、側面から支援していきたい。

②建築学会四国支部ワーキンググループ活動

研究成果は「鳴門市茅葺き民家実態調査報告書」としてまとめた。また、建築学会四国支部研究発表会（平成１６年５月の予定）にて公表していく。鳴門市全体で１９５件の茅葺き民家が確認できた。山・海・平野で構成される鳴門市では、農地のひろがる平野で多くの茅葺き民家がみられた。商業地がある中心部にも茅葺き民家が残されているが、規模が小さく空き家も多い。１軒ごとの敷地が大きい西部の土成町などと比べて、全体的に規模が小さいようであるが、一部にかつての庄屋など大規模で重要そうな茅葺き民家も残されている。

平成１６年度は徳島市の西部に隣接する石井町で茅葺き民家の実態調査を実施する予定で、徳島市からの影響やつながり、近い将来さらに西部の鴨島町や川島町の茅葺き民家との関係を検討する端緒となるものである。

③まちなみ調査

港町・商家町・寺町・門前町・武家町・漁村集落・農村集落のまちなみ類型に従い、県内２９カ所のまちなみを調査した。その成果は、まちなみ類型や特徴などのコメントを加えた「まちなみマップ」としてまとめた。

城下町徳島のまちなみは、明治以降の都市構造の変化や戦災により著しい被害を受けたことから、まちなみの様相が大きく変化したところが殆どであった。そのなかで伝統的なまちなみの名残を感じることができたのが、寺町と伝統的な町屋形式の建物が残されている大道である。旧街道沿いのまちなみは、県内各地で確認できた。特に県西部で特徴的なうだつのまちなみは、重要伝統的建造物群保存地区で有名な脇町をはじめ、貞光・池田でも残されている。四国八十八カ所の札所の門前町は、当初期待していたほど

のまちなみを確認することができなかった。ミセ造りのまちなみが残されている県南部の漁村集落でも、高齢化・過疎化の進展により空き地や空き家が増加し、まちなみに変化がみられる。また、ミセを利用する人々の姿をみることも困難になってきている。農村集落については立地や集落形態別に事例をあつめ特徴を明らかにしていく必要があるが、今回は事例が少なく十分な考証はできていないため、今後とも継続的に調査を行っていく予定である。

「阿波のまちなみマップ」目次構成

Ⅰ　調査対象地の選定

Ⅱ　まちなみマップ

1．港町	(1) 岡崎・港町のまちなみ
2．うだつのまちなみ	(1) 脇町・うだつのまちなみ (2) 貞光・重層うだつのまちなみ (3) 池田・うだつのまちなみ
3．商家のまちなみ	(1) 大道・戦後の町屋のまちなみ (2) 佐古六番町・戦前の市内最大の問屋町 (3) 北島田・讃岐街道のまちなみ (4) 鳴門・撫養街道のまちなみ (5) 小松島市松島町・商家のまちなみ (6) 鷲敷・旧仁宇谷街道のまちなみ
4．寺町	(1)徳島市寺町・寺院のまちなみ (2)美馬町寺町・寺院のまちなみ
5．門前町	(1) 霊山寺・門前町のまちなみ (2) 切幡寺・門前町のまちなみ (3) 立江寺・門前町のまちなみ (4) 薬王寺・門前町のまちなみ
6．武家町	(1) 安宅・加子屋敷のまちなみ (2) 沖洲・加子屋敷のまちなみ (3) 大里・御鉄砲と呼ばれる武家屋敷のまちなみ
7．農村集落	(1) 夷山・石垣のまちなみ (2) 一宮町・街道筋の農村集落 (3) 鳴門市大川筋・谷筋の農村集落 (4) 椿・散居型農村集落 (5) 東祖谷落合・斜面にひろがる山村集落
8．漁村集落	(1) 北泊，堂浦・北方らしくない北方の漁村集落 (2) 椿泊・手摺のある細長い漁村集落 (3) 日和佐・漁村集落のまちなみ (4) 牟岐町灘宮田・ミセ造りのまちなみ (5) 出羽島・ミセ造りのまちなみ

Ⅲ　まとめ

今回の調査のまとめとして、一つの視点を表している。まず伝統的なまちなみを発見し、その成立過程やまちなみを構成する街路・樹木・建築物・付属物などを調査し、その特徴を明らかにすることである。加えてまちの歴史的なコンテクストを読みとり、新しいまちづくりの視点を探る。まちにはそれぞれ固有の歴史があり、伝統的なまちなみ以外にもまちの記憶や遺伝子のようなものが残されている。それらの成り立ちや意味を問うことにより、まちにふさわしい建築物や街路などのあり方を知ることができるものと考える。

④建築単体の個別調査

昭和７年建設で平成１５年現在廃校となっている上那賀町白石小学校木造校舎の現状調査をおこない、「上那賀町白石小学校調査報告」としてまとめた。

明治中期以降標準設計で質を均質化された学校建築のなかにあって、凝った意匠の施した玄関部があり、長い間使われていないにも係わらず状態はよい。戦前に建てられた木造校舎は珍しく、日本の近代化を表す歴史的遺産としての価値は感じられる。この調査を契機に、今後は県内の木造校舎の残存状況や特徴などを把握する実態調査を行うとともに、遊休化しているものには活用方策の提案などを行っていく予定である。

５．今後の展開

（１）これまでの活動の継承

①調査研究の蓄積

「阿波のまちなみ研究会」も発足以来２０年が経ち、かなりの研究データが蓄積されてきた。かつて徳島は民家の宝庫といわれ、地形や風土・歴史によって形態に変化のある民家や町並みが生み出され、少なからず今も残されている。それらを社会的あるいは建築学的に評価し保存活用を考えていくために、理想的には全数を見ておきたい。ただ現在５０市町村ある徳島県で、阿波学会のように毎年１市町村を調査しても全てを見るのに５０年かかる。急がなければならないが、逆に少しずつでも着実にデータを蓄積していくべきである。

具体的な調査研究活動は、Ⅰ阿波学会総合学術調査への参加、Ⅱ建築学会四国支部ワーキンググループ活動などによる茅葺き民家実態調査、Ⅲ個別的な建物・町並み調査の３類型に分けることができる。

Ⅰは阿波学会という団体への参加であり我々独自の主体的な活動ではないが、我々に貴重な調査の機会を与えてくれる場であり、学際的な範疇で民家や町並みを考えることができる。今後とも参加を続け、さらに歴史や自然に関する他の学会との協働を強め、民家や町並みに対する考察を深めていきたい。

Ⅱは、自主研究である。平成１１年度は徳島市庄町と阿南市椿泊の町並み調査、１３～１４年度は徳島市茅葺き民家調査、１５年度の鳴門市茅葺き民家調査と続き、１６年度は石井町の茅葺き民家の実態調査をおこなう予定である。徳島の民家は間取りや部屋の呼び方、入り口の勝手など、徳島県下全般に共通しながら、一方で地域的な特徴がみられるものもある。実態調査を重ね、全体的な傾向や地域的特徴をつかみ、成立要因を解明していくことで、徳島に固有な民家の構造を明らかにしていきたいと考える。

Ⅲは他の２類型と異なり不定期な調査である。しかし、伝統的な民家や町並みが失われつつあるなかでその価値が見直され、今後このような個別的な調査が増えてくることが考えられる。これまで徳島には建築系の大学がないこともあり、民家や町並み調査に建築士のグループである「阿波のまちなみ研究会」が少なからず係わってきた。伝統的な民家や町並みを調査できるグループとして認知されてきた結果と自負するが、さらに専門家集団として自己研鑽する必要がある。ⅠやⅡを続けるなかで調査の方法や技術を磨きながら、個別的な調査に対応できるようなシステムと組織を維持していきたい。

②調査研究成果のフィードバック

まちを知ることは、新しいまちづくりにつながる。まちには固有の歴史があり、将来のまちもその延長線上に形成されるものであろう。まちに必要なものは残され、不必要とみられるものは淘汰されていくが、まちの将来に何が必要で何が不必要かを、まちに係わる人達全員に共有されなければならない。まちの将来のあるべき姿が明確で、全員がそれを認知し、実現するように行動しなければ、人々が求めるまちにはならない。そのためには、現在あるまちの資源の良さを理解してもらうことから始めなければならない。我々が持つ伝統的建造物や町並みの調査研究の成果を地域の人たちにフィードバックすることで、まちの良さの一端を知る契機となるよう、啓蒙活動に取り組みたいと考えている。

③まち研だより」の発行

「まち研だより」も１０年になる。「継続は力なり」というが、継続できる力や組織・背景があるという証明でもあり、可能な限り発行を続けていきたい。我々の考えを公表し、良くも悪くも判断を受け、できれば一緒に活動していく。後述するようにこれから計画的な活動やまちづくりの実践をしていく場合、考え方や情報の公開は必須の条件といえる。

（２）新しい活動の展開

①調査研究成果のまとめ

伝統的な民家や町並みの再生活用をはかる場合、その社会的な価値や意義・必要性が一般的に認知されなければならない。そのためにその価値を評価し、結果を公表していく必要がある。しかし、こうした調査研究活動は資料保存としての効果は大きいものの、年々減少していく伝統的な建築物の再生や活用を考える上では、十分とは言えないところがある。貴重な歴史的資源である建築物に対して、何らかの再生や活用方策を考えていかねばこのまま消え去るのみとなりかねない。伝統的な建造物や町並みの価値を今の社会の中で位置づけ、その再生活用の必要性を認識してもらい、存続させていくような方策を考えていく必要がある。

今回作成した「まちなみマップ」は、これまで「阿波のまちなみ研究会」が２０年間行ってきた調査研究のまとめであり、調査研究成果を現在の目で再構築することである。この「まちなみマップ」を公にし、関係する様々な人たちに問題提起をすることで、伝統的な民家や町並みが再評価され、再生活用につながるための第一歩としたい。

②再生活用やまちづくりに向けての提案

伝統的な民家や町並みが再評価されたとしても再生活用されていくためには、具体的なまちづくりや再生活用のための提案が必要である。リアリティの高い提案を行うためには、民家の所有者や地域住民の意向の確認、地域における主体形成、施工体制の確保、建築物や町並み再生のための予算措置等の行政のサポート体制の確立など様々な課題がある。「阿波のまちなみ研究会」だけで解決できる問題は少ないが、関係者に積極的に働きかけていきたいと考える。

６．活動のポイント

（１）人材の活用

①地域社会への働きかけとキーパーソンの発掘

「まちなみマップ」や計画があっても、地元が動かなければ保存活用やまちづくりはできない。そのために、まず地域社会に働きかけていかねばならない。地域に人たちが気づいていない伝統的な建造物やまちなみの価値に気づいてもらう必要がある。また、現実のまちづくりには地元のキーパーソンの役割が重要となり、キーパーソンの発掘と養成のためにも啓蒙活動に努める必要がある。

②研究会の活性化と専門集団化

新たな活動を展開するには、我々がまちなみや伝統的建築物の再生活用の専門家集団となっていかねばならない。そのためには、従来の調査研究で培ったノウハウだけではなくまちづくりや地域振興等に関するノウハウも必要となる。これまでに形成された専門家とのネットワークを強化するとともに、新たな専門家とのネットワークづくりを積極的に進め、まちなみや伝統的建築物の再生活用に関する様々な支援が受けられるような体制づくりを進めなければならない。

③若手後継者の育成

研究会の発足後２０年となり、会員の平均年齢も上がってきた。再生活用やまちづくりは長期間に渡るし、エネルギーも必要である。現在の会員の能力向上も大切であるが、若い新たなエネルギーの注入がなければ組織は活性化していかない。それとまちづくりには建築の専門以外の要素が織り重なるところであり、新たな人材は建築士会だけに限らず広く求めていく必要がある。

④施工体制の確立

町並み再生や伝統的建造物の活用を図る際、施工体制の確立が不可欠となる。伝統工法を熟知した職人の確保や、伝統的な建築材料の確保が大きな課題となる。特に、伝統的な技術を持つ職人は高齢化が進み、腕を振るう機会も少なくなり、このままでは技術の継承が困難な状況にある。幸いなことに、伝統工法に興味を持つ若手の研究者や実務者も現れ始めており、両者をつなぎ、技術の継承がスムーズに行われる契機づくりが求められている。研究会だけではできることにも限界があるが、合同調査、石積みや茅葺きのイベントなどを行い、技術継承の場づくりを積極的に行うほか、施工体制づくりの支援にも取り組んでいきたいと考えている。

（２）資金調達

活動資金の調達は、常に当研究会が抱える課題である。これまでの概略収支は以下の通りであるが、通常の調査研究活動に対して、日当・食事代はおろか交通費も満足に出せない状況である。

①助成などの収入

・会員の年会費：５０００円／人・年
・建築士会本会からの助成：５万円／年
・阿波学会調査の交通費
・建築学会ワーキンググループの予算：８万円程度

・「阿波の農村舞台」など報告書や書籍の売り上げ
・委託調査の委託費
②支出
・「まち研だより」郵送代
・調査研究活動費
・事務消耗品
今後、活動のポイントにあげた課題に具体的に取り組むにあたっては、手軽に利用できる助成制度が整備されることを望みたい。

（３）関係機関との連携・ネットワーク等
①今あるネットワークの関係強化
現在研究会と関係する団体やグループは以下の通りであるが、今後とも更に密接に連絡を取り合い、ともに活動を続けていきたい。
・建築士会本会および各研究会、建築士会連合会
・阿波学会
・建築学会
・阿波農村舞台の会
・ナショナルトラスト
・まちなみ保存連盟
・きんもくせい
・全国茅葺き民家保存活用ネットワーク
・歴史文化のまちづくり研究会
②新しいネットワークの構築
新たな活動の展開には当然新しい団体やグループとの出会いや協働関係が生じるが、自分たちの新たなノウハウの構築のためには、ネットワークを広げることが不可欠であり、今後とも積極的に取り組んでいきたい。今考えられるのは、以下のものである。
・町並み保存関係団体およびまちづくりグループ
・ＮＰＯ法人
③行政との連携強化
民家や町並み調査をする上で、地域に関する様々な情報を持つ行政との関係強化は重要である。伝統的な建造物や町並みの再生・活用となると、行政の協力なしでは成立しない。具体的には資金面での支援、再生・活用計画の政策への位置づけ、関連する各種計画との調整などが考えられる。行政の協力が円滑に受けられるようにするためには、初動期からの良好な関係づくりが不可欠であり、日頃から連携を密にしておくことが必要である。研究会から各自治体への情報提供を絶やさないほか、価値の高い伝統的建造物や町並みを有する自治体の担当者に働きかけ、合同調査や勉強会の開催などに取り組んでいきたいと考えている。